



教師の企業派遣研修

先日、横浜市の小学校と中学校の「暴力行為」「いじめ」「不登校」の調査結果が報告されました。平成25年度の小学校、中学校の「暴力行為」は小学校も中学校も同約2000件、「いじめ」は小学校2279件、中学校954件、「不登校」は小学校988人、中学校2423人でした。前年度との比較では、小学校での暴力行為が約6割も増加したようです。このような状況を解決し、より良い教育を実施するためには、いつも思うことですが、まずは家庭教育であり、学校の教師力の向上であると思います。しかし、学校だけでなく社会全体で子供たちを見守り育てなければならないと、このレポートでも何度か主張してきました。学校の教師だけに責任を負わせるのではなく、学校、家庭、地域が一体となって子供たちを育成しなければならないと思います。

そして、企業にもできることがあります。それは、教師の研修を受け入れ、教師を応援することです。横浜市では、市立学校の教師の方々に民間企業等での業務体験を通し、視野を広げて資質を向上していただきたいと、以前からロータリークラブさん等にご協力いただき、副校長に昇任される教師に短期の民間企業研修を行ってきました。今年是一般の教師について対象を広げ、さらに人数を大幅に増やし、夏季を中心に約300人の教師の方が民間企業等へ一週間派遣されました。ご協力いただきました企業の皆様と施策を推進した教育委員会に感謝申し上げます。このことはあまり大きく報道されていませんが、全国でもこれだけ多くの教師を企業に派遣する研修を実施している教育委員会は、横浜が初めてだと思います（民間企業には学校法人や社会福祉法人等も含みます）。

研修後のアンケート結果を見ると教師側も企業側もお互いにメリットを感じているようです。教師は一度教師になると、民間企業で働くことはまずありません。しかし、子供たちの親の多くは民間企業で

働いています。教員だけの世界にいと視野が狭くなるとも言われます。これは、どの業界でも同じことが言えるかもしれませんが、自分の仕事以外の仕事を体験することは貴重な機会となり、幅広く仕事にも活かすことができると思います。このことは、市の職員も同じで、民間企業で研修することを以前から横浜市に提案しています。今年の教師の企業等派遣研修は、約300人と今まで以上に大規模な研修となりましたが、横浜市の教職員数は約1万6千人です。来年以降はもっと多くの教師に研修を受けただけのよう、横浜市の教育常任委員会でも発言しました。横浜市の教師を応援するために、皆様の会社でも約一週間の研修を受け入れてみてはいかがでしょうか？繰り返しになりますが、家庭や学校に任せるだけでなく、自分には何ができるかを考えることが大切であり、それは教育以外の様々な社会問題を解決することも同じことが言えると思います。

最近、公設民営の学校も特区で認められるようになり、積極的に取り組む自治体も出てきました。佐賀県武雄市では、民間学習塾の「花まる学習会」が小学校に学習プログラムを導入し、官民一体型の小学校を作ります。「花まる学習会」は数理的思考力・読書と作文を中心とした国語力に加え、野外体験を三本柱として、将来「メシを食える大人」そして「魅力的な人」を育てることを目標とした学習塾です。今の日本は、官が悪い、民ではダメだと言っている場合ではなく、良いものは何でも取り入れることが大切だと思います。文部科学省所管の「統計数理研究所」が先月30日に発表した国民性調査によると、日本人の83%が「生まれ変わるなら日本に」と考えていることが分かりました。5年前より6ポイント上がったようで、20代が急増しているようです。様々な課題があっても、下を向かず、日本人で生まれ育ったことに感謝し、物事を前向きに考えて、社会全体で課題を克服できればと思います。社会全体で学校を支え、子供たちを見守り、将来の日本を担う子供たちが明るく元気に成長してほしいと思います。

秋も深まってまいりましたが、読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋です。大いに楽しんでいただきたいと思います！

横浜市議員 古川なおき

「やっぱり読書の秋」

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が平成25年6月に制定され、平成26年4月に施行されました。この条例では、読書活動に関する市民の関心及び理解を深め、読書活動の推進のために、毎月23日を「市民の読書の日」とし、毎月11月を「市民の読書活動推進月間」としています。「本は知識の泉！」秋の読書は皆様にオススメです！

旭区では、読書活動推進月間に合わせ、「読書カード」と「特製しおり」を配布します！

○読書カード……どんな本を借りて読んだのか、自ら確認できるように、本の書名や著者名などを書き込むためのカード（大人用、子供用）。

☆配布場所（区内図書貸し出し施設他）

…旭図書館、地区センター、コミュニティハウス、地域ケアプラザ、市民図書室、旭区地域振興課他

○特製しおり……区民の皆様に愛着をもっていただけるよう「あさひくん」をモチーフにした3種類のしおりを作成。

☆配布場所（区内書店、旭図書館他）

…アミーゴ書店二俣川店、くまざわ書店二俣川店、TSUTAYA 鶴ヶ峰駅前店、福家書店若葉台店、文教堂書店上白根店、文教堂書店鶴ヶ峰店、旭図書館、地区センター、旭区地域振興課他

※読書カードは4,000部、特製しおりは4,500部作成。なくなり次第終了。

横浜市立図書館メールマガジン配信登録のご案内

○17館（※）各館のメールマガジン
○月1回お届け（毎月20日頃）臨時号もあります。
○各館のイベント情報、お知らせ、休館日・開館時間
（※）山内図書館のメールマガジンについては、山内図書館ホームページをご覧ください。http://yamauchi-lib.jp

図書館で行うイベントをお伝えしたり、本の紹介、地域の豆知識など、ちょっと役立つ情報が載ることもあります。メールマガジンの配信登録をして、より便利に図書館を活用しませんか？

横浜市立図書館 メールマガジン 検索

企業・団体等の皆様からの市立図書館18館への寄贈を募集しています！

横浜市図書館では平成21年度に、市内の小学生を対象として「みんなに読んでもらいたい本」を募集し、その中で推薦の多かったものを集めて「ヨコハマの子どもが選んだ150冊」として発表しました。このリストに挙がっている本はどれも子どもからの人気が高く、特に利用の多い本ばかりですが、予算の都合上、人気がある本だからといって十分な冊数を揃えられていないのが現状です。子どもたちへのプレゼントとして、「ヨコハマの子どもが選んだ150冊」の寄贈にご協力をお願いします。

<問合せ先>

横浜市中央図書館調査資料課 電話：045(262)7336

Eメール：ky-shiryosyusyu@city.yokohama.jp

「古川なおき事務所でインターンをして感じたこと」

今期の議員インターンシップで私が感じる「議員」のイメージが大きく変わった。最近テレビや新聞などで騒がせた地方議員の失態は、私を含む多くの人間が誤解を生むことになったと思う。インターンシップ初日はそんな誤解を持ちながら議員に接触したことを覚えている。なおきさんは初めて会った私たちに「学生に会えるのを非常に楽しみにしていた」と言い、温かく迎え入れてくれた。そして「私はあなた達を学生だからと見下したりはしない、対等に接したいので遠慮せずに何でも言ってほしい」と続けて言った。

私は大学の講義で「よりよい民主主義とは何か」ということを学んだが、この講義では自分が考える答えは出せなかった。しかし、古川事務所でインターンシップをしていたとき少しばかりこの答えを出すことが出来たと思う。それは、「有権者とか政治家とか関係なく、立場を対等にすること」そして「どの世代、職業、身分関係なしに好き嫌いをしないこと」の二点だと私は考えた。この二点はなおきさんを見ていて感じるが多かったと思う。政党や政策、学歴というのは選挙において非常に大切な要素になると思っていたが、なおきさんの支持者にお会いした時、その様な要素は気にしていなかったように思えた。支持者の皆さんの職業は意外にも農家の人やお豆腐屋さん、ラーメン屋さんの経営者など地元民が多く、なおきさんの人柄に惹かれていた。そしてなおきさんも彼らにはフレンドリーに接しており、支持者の方たちとお話する時も仕事をしているというよりはお友達のような感覚でお話を楽しんでいた。勿論なおきさんはこの世の中の悪いところを直そうという意思も持っているが、とにかく出逢った人との関わりを非常に大切にしており、どの様な人ともお友達になりたいという考えがあった。私はこのなおきさんの考え方を初めは

「選挙のためなのか」と思うことがあったが、インターンシップをしていくうちに「これが彼の人格」と感じるようになり、私もこの考え方に肯定的になった。極度の人見知りや新しい人と関わるのが苦手な私だったが、インターンシップをしていくうちにこの様な生き方に後悔を感じた。これはなおきさんの活発で向上心のある性格と、悪い空気にある世の中を変えてやるという彼の自信を見ていて強くそう思った。そして私の中で「人と関わること」＝「積極的、楽しい」という方程式が出来るのには時間がかからなかった。この様にインターンシップでは彼の性格で自分の考えが変わった気がする。

世間を騒がせた地方議員たちについて、失態を猛省すべきだと思うが、彼らに投票した人たちに責任はないのだろうか、とも思う。この地方議員たちに投票した有権者たちは多分彼らの演説や政策などに惹かれて投票したのだと思うが、彼らの人柄までは知らないだろうし、知っていたら投票はしないだろう。政治家を選ぶにあたって学歴・政党・政策・演説などは本当に必要なのだろうかということを考えた時に、確かに少しは必要かもしれないが政治家の人間性や性格などといった中身が一番大切ではないかと今回のインターンシップを通じて強く感じた。また、私を含め今の若い世代は自分に精一杯で、人との関わり合いや世の中の流れに背を向けている人が多いが、私はこの様な人間にはならないように気を付けようと思った。

最後に、私は古川事務所で議員インターンシップを続けようと考えている。これはもっとなおきさんの元で学びたい・自分を変えたいという私の考えからであり、この様な考えになったのも古川事務所の議員・秘書のおかげだと感じている。

國學院大学政治経済学部2年 早川美穂

古川なおき政務調査事務所

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000

E-Mail: jm@furukawa2002.com

みなさまのご意見を
お待ちしております！

<古川なおき事務所>

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘199-1

相鉄線希望ヶ丘駅より徒歩6分

